

景気の現状と今後の見通しの悪化が続く

鈴鹿商工会議所
中小企業相談所

(総括)

鈴鹿商工会議所では、鈴鹿地域の企業の業況と今後の見通し、問題点等を把握するため、会員企業を対象に毎年1月と7月に景気動向調査を行っている。このたび平成27年下期(7月～12月期)の調査結果がまとまった。

全体の景気動向としては、現状・見通し・売上・利益のDI値において、前回調査(平成27年1月～6月)と前年同期調査(平成26年7月～12月)を比較すると共に悪化を示す結果となった。マクロ的な要因としては、中国経済の減速による影響が徐々に現れつつあり、政府の推進している景気浮揚策の効果が限定的で地方の中小企業・小規模事業者にまで及んでいないことなどが原因と推察される。

また、ミクロで考察すると、地場産業の二輪・四輪自動車関連の製造業では、市内大手企業の四輪自動車製造工場で大規模な減産があり、前回調査時から景況感が悪化し、今回の調査でも悪影響が残っている。一方、二輪自動車のカスタムパーツなどが東南アジアや国内ではシニア世代などに人気あり、関連企業では好況である。

(対象 1,106社 回答企業 459社、回答率 41.5%)

DI値(ディフュージョン・インデックス)とは

DIとは、景気動向を示す指標で、調査時点における企業家の経済行動(強気や弱気など)を知るためのものであり、景気動向を客観的に判断する資料として幅広く使用されているもので、特に言及がない限り、「増加」「好転」したとする企業から、「減少」「悪化」したとする企業割合を差引いた値である。

●現状の景気について (図-1・3 参照)

「良い」「やや良い」は16.8%(前回20.0%:前年同期23.4%)、「やや悪い」「悪い」は46.6%(前回42.9%:前年同期38.9%)となった。

景気動向を示すDI値は、 $\Delta 29.8$ (前回 $\Delta 22.9$:前年同期 $\Delta 15.5$)と前回より6.9ポイント悪化、前年同期より14.3ポイント悪化している。

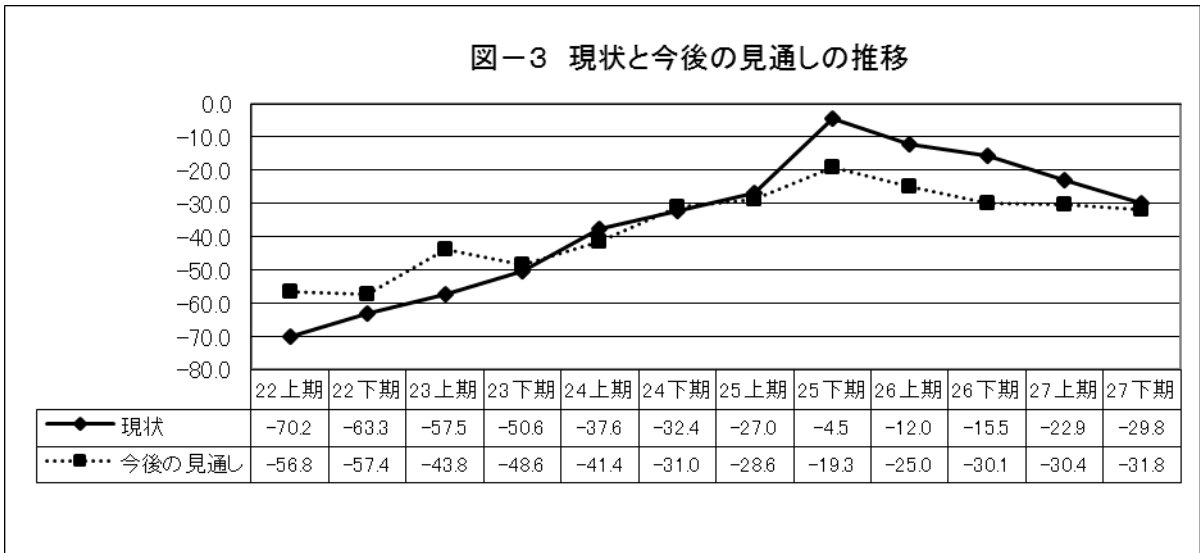
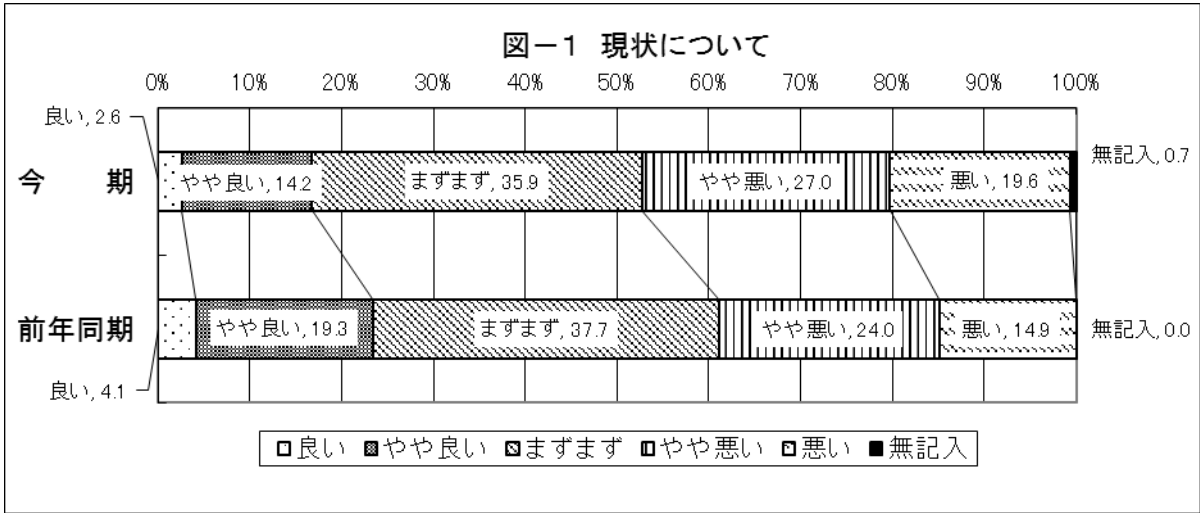
業種別では、製造業DI値 $\Delta 19.9$ (前回 $\Delta 19.0$:前年同期 $\Delta 16.8$)、卸売業DI値 $\Delta 41.1$ (前回 $\Delta 38.5$:前年同期 $\Delta 40.0$)、小売業DI値 $\Delta 61.8$ (前回 $\Delta 50.8$:前年同期 $\Delta 35.8$)、建設業DI値 $\Delta 8.6$ (前回 $\Delta 9.2$:前年同期0)、飲食業DI値 $\Delta 51.4$ (前回 $\Delta 32.3$:前年同期 $\Delta 13.0$)、サービス業DI値 $\Delta 27.0$ (前回 $\Delta 9.8$:前年同期 $\Delta 25.6$)となった。

●今後の景気見通しについて (図-2・3 参照)

「良い」「やや良い」は、10.4%(前回13.3%:前年同期13.7%)、「やや悪い」「悪い」は42.3%(前回43.7%:前年同期43.8%)となった。

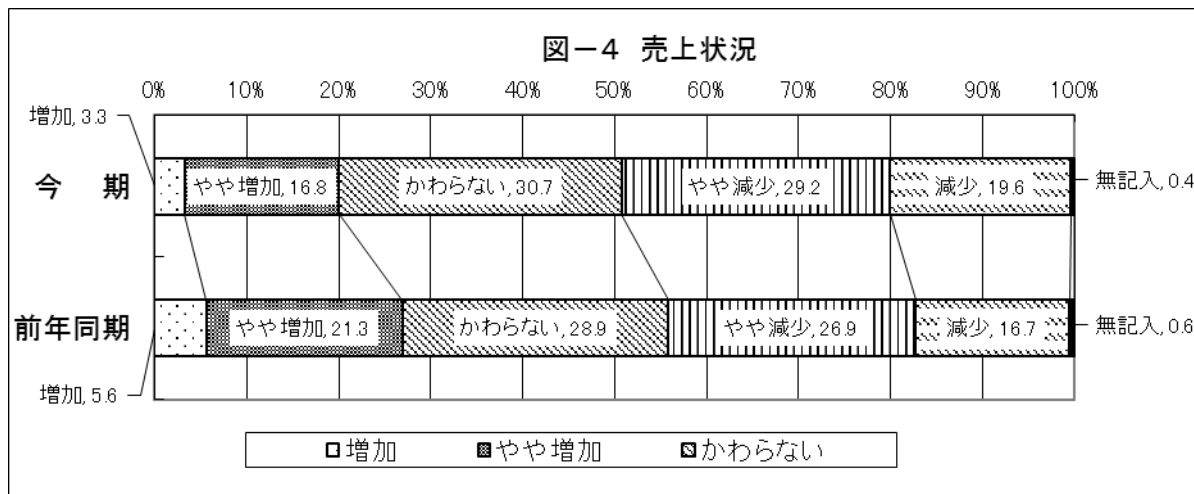
DI値は、 $\Delta 31.9$ (前回 $\Delta 30.4$:前年同期 $\Delta 30.1$)と前回より1.5ポイント悪化、前年同期より1.8ポイント悪化している。

業種別では、製造業DI値 $\Delta 17.1$ (前回 $\Delta 26.6$:前年同期 $\Delta 23.7$)、卸売業DI値 $\Delta 47.0$ (前回 $\Delta 15.4$:前年同期 $\Delta 40.0$)、小売業DI値 $\Delta 63.0$ (前回 $\Delta 46.2$:前年同期 $\Delta 51.0$)、建設業DI値 $\Delta 21.4$ (前回 $\Delta 18.3$:前年同期 $\Delta 23.4$)、飲食業DI値 $\Delta 42.9$ (前回 $\Delta 45.2$:前年同期 $\Delta 34.8$)、サービス業DI値 $\Delta 27.0$ (前回 $\Delta 33.3$:前年同期 $\Delta 34.9$)となった。



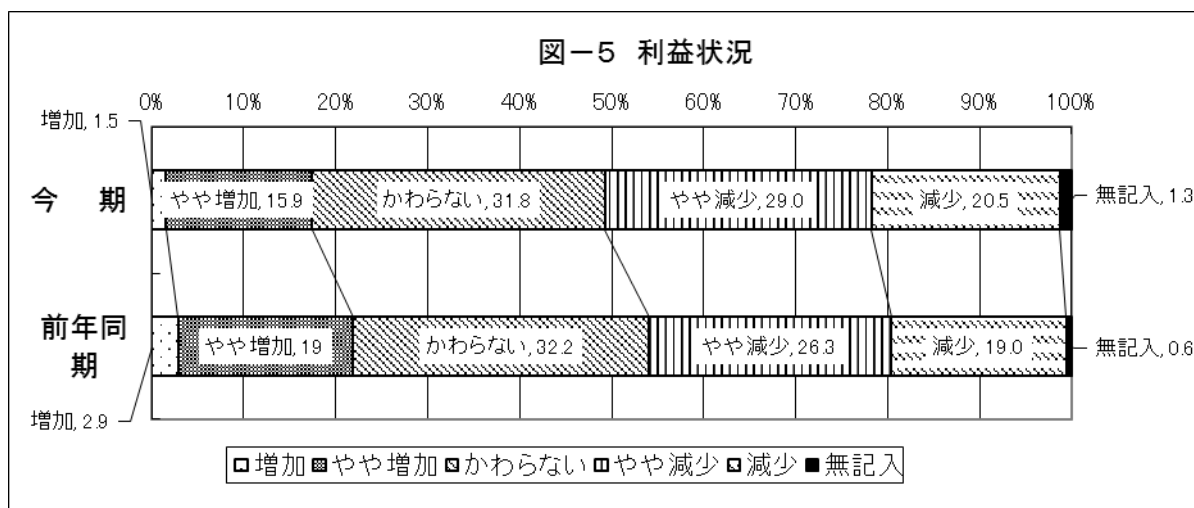
●売上状況について（図-4 参照）

「増加」「やや増加」は 20.1%（前回 21.1%：前年同期 26.9%）、「やや減少」「減少」は 48.8%（前回 48.8%：前年同期 43.6%）となった。DI 値は△28.7（前回△27.7：前年同期△16.7）前回より 1.0 ポイント悪化、前年同期より 12.0 ポイント悪化している。



●利益状況について（図-5 参照）

「増加」「やや増加」は 17.4%（前回 16.2%：前年同期 21.9%）、「やや減少」「減少」は 49.5%（前回 47.2%：前年同期 45.3%）となった。DI 値は△32.1（前回△31.0：前年同期△23.4）前回より 1.1 ポイント悪化、前年同期より 8.7 ポイント悪化している。



経営上の問題点(上位3位)

(単位:%)

		第1位	第2位	第3位
業 種 別	製造業	売上・受注の停滞減少 (43.8)	人材育成 (24.8)	設備・店舗の狭小老朽化 (21.9)
	卸売業	売上・受注の停滞減少 競争激化 (47.1)	人材育成 税務・経理問題 (23.5)	原材料高及び不足 (17.6)
	小売業	売上・受注の停滞減少 (62.9)	競争激化 (33.7)	設備・店舗の狭小老朽化 (31.5)
	建設業	人手不足 (41.3)	売上・受注の停滞減少 (37.3)	人材育成 (27.0)
	飲食業	売上・受注の停滞減少 (60.0)	原材料高及び不足 (34.3)	設備・店舗の狭小老朽化 (20.0)
	サービス業	売上・受注の停滞減少 競争激化 (32.4)	人手不足 (27.0)	設備・店舗の狭小老朽化 人材育成 (21.6)
	交通運輸業	売上・受注の停滞減少、人手不足 人件費以外の経費増加、人材育成 (40.0)	法的規制等 (20.0)	
	その他	売上・受注の停滞減少 (50.0)	人手不足 競争激化 (25.0)	人件費の増加、人件費以外の経費増加 設備店舗の狭小老朽化、税務・経理問題 (12.5)
総合	売上・受注の停滞減少 (45.3)	競争激化 (24.8)	人手不足 (23.3)	
前年同期	売上・受注の停滞減少 (43.0)	人材育成 (30.4)	競争激化 (27.5)	

●現状の業況と今後の業況見通しについて

a) 現状の業況について

「良い」「やや良い」は 17.6%（前回 15.3%：前年同期 32.0%）、「やや悪い」「悪い」は 47.0%（前回 50.0%：前年同期 48.0%）となった。DI 値は△29.4（前回：△34.7 前年同期△16.0）前回より 5.3 ポイント改善、前年同期より 13.4 ポイント悪化している。

b) 今後の業況見通しについて

「良い」「やや良い」は 11.8%（前回 15.4%：前年同期 28.0%）、「やや悪い」「悪い」は 38.2%（前回 50.0%：前年同期 44.0%）となった。DI 値は△26.4（前回△34.6：前年同期△16.0）前回より 8.2 ポイント改善、前年同期より 10.4 ポイント悪化している。

●売上状況と今後の見通しについて

a) 売上状況について

「増加」「やや増加」は 17.6%（前回 15.3%：前年同期 32.0%）、「やや減少」「減少」は 41.2%（前回 50.0%：前年同期 44.0%）となった。DI 値は△23.6（前回△34.7：前年同期△12.0）前回より 11.1 ポイント改善、前年同期より 11.6 ポイント悪化している。

b) 売上の見通しについて

「増加」「やや増加」は 14.7%（前回 19.2%：前年同期 24.0%）、「やや減少」「減少」は 29.4%（前回 53.8%：前年同期 52.0%）となった。DI 値は△14.7（前回△34.6：前年同期△24.0）前回より 19.9 ポイント改善、前年同期より 9.3 ポイント改善している。

●利益状況について

「増加」「やや増加」は 17.6%（前回 19.2%：前年同期 36.0%）、「やや減少」「減少」は 50.0%（前回 46.2%：前年同期 44.0%）となった。DI 値は△32.4（前回△27.0：前年同期△8.0）前回より 5.4 ポイント悪化、前年同期より 24.4 ポイント悪化している。

■お問い合わせ

鈴鹿商工会議所中小企業相談所

TEL：059-382-3222

FAX：059-383-7667